

連携室たより

第 58 号

平成 25 年 8 月 1 日
出雲市姫原 4 丁目 1 番地 1
島根県立中央病院 地域医療連携室
医療連携・医療相談科

TEL 0853-30-6500

FAX 0853-30-6508



形成外科紹介

形成外科部長 岡本 仁



皆さん形成外科にどのような印象をお持ちでしょうか？

美容整形？整形外科のこと？

いまいちよくわからない人も多いのではないかと思います。

現在、島根県立中央病院でしている診療は、一般的な外傷、顔面骨折、手の外傷、唇裂などの先天異常、熱傷、眼瞼下垂、乳房再建などなど多彩で、結局、形成外科とは何なのかわかりにくいと思います。

たとえば顔の傷跡を気にしている女性がいて、傷跡を気にして外出を控えたり、人と会うことに苦痛を感じていたとします。その女性に手術をして傷跡をきれいにすることで、以前よりも外出しやすく、人と会いやすくなるでしょう。その女性は病気であったわけでもありませんし、その手術で寿命が延びたわけでもありません。しかし、外出を控え人と会うことが苦痛であることで傷ついていた社会的な生命が治療できたのではないのでしょうか。

そのような社会的な生命を救うということが形成外科の役目です。

それでは具体的な治療内容について代表的なものを説明していきます。

	治療内容
眼瞼下垂	まぶたを上げる筋肉が弱い、皮膚がたるむなどで、眼を開けにくくなる病気です。仕方なく眉毛・おでこを動かすことで眼を開けるわけですが、余計な力が入ることで頭痛、肩こりが生じます。手術で筋肉を強くしたり、皮膚のたるみを取ることで治療可能です。
皮膚腫瘍	ホクコ、イボなど様々な種類がありますが、最近大きくなってきた、汁や血が出る、傷が出来るなどの症状がある場合、悪性の可能性もあります。早めにご相談下さい。
ケロイド 瘢痕	正直なところ傷跡が消えることはありませんが、傷を小さくしたり、目立たなくすることはできます。テープ、注射、薬の内服、圧迫、手術など様々な治療をしております。

乳房再建	乳癌切除後の変形を治療することが出来ます。周囲の皮膚・脂肪・筋肉を移動させたり、シリコンインプラントを入れることで、乳房再建します。
顔面骨骨折 顔面外傷	出来るだけ目立たない傷で、出来るだけ元の形に近づくように治療しています。骨折に関しては超音波も使用しながら整復し、5年で消失する吸収性プレートを多用してできるだけ負担の少ない治療をしております。
手の外傷	切断指、開放骨折、腱損傷など治療しております。丁寧な骨接合、腱縫合を心がけるとともに、指尖部切断に関しても supermicrosurgery の手技を用いてできるだけ再接着しております。また手術だけでなくその後のリハビリにも力を入れ、スムーズに社会復帰できるよう支援しております。

その他、口唇裂、口蓋裂、臍ヘルニア、先天性耳瘻孔などの先天奇形、睫毛内反症、外反症などの眼瞼疾患、熱傷、難治性潰瘍など様々な疾患に対応しておりますので、今後ともご紹介のほどよろしくお願いいたします。

認定看護師の紹介コーナー

新生児集中ケア認定看護師

NICU 副看護師長 遠藤 智弘



新生児集中治療室（Neonatal Intensive Care Unit：NICU）で新生児集中ケア認定看護師として勤務しています、遠藤智弘です。新生児集中ケア認定看護師は、低出生体重児や疾患を持って生まれてきた新生児の、主に急性期において看護ケアを行う看護師です。また、NICU に子どもが入院し強い不安を抱えているご両親の思いを受け止め、そして一緒に成長を喜べるような、そのような関係を築ける家族ケアに努めています。

新生児が生まれる時は一生の中で最も死の危険にさらされる瞬間だと言われています。90%の新生児は自分の力で呼吸し循環を確立できるのですが、10%の新生児には人工呼吸などの蘇生処置が必要であると言われています。そのため、分娩に関わるスタッフの蘇生技術習得を目的として、日本周産期・新生児医学会公認の「新生児蘇生法講習会」を開催しています。インストラクターを取得して5年の間に総合周産期母子医療センターの研修として9回開催し、周辺の産科施設からも多数の方に参加いただいています。本年度からはインストラクターも増員となり、今までより多く開催できるよう計画しています。またインストラクターの中には助産師もあり、リアリティのある講習会になるよう努めていきます。



新生児集中ケア認定看護師としての自分の目標は「赤ちゃんと家族を中心としたチーム医療の実践」です。そのためには、一人一人の看護師が自律し、考えるケアを実践できることが必要となります。個人の能力を高め、その能力を互いが認め合い、赤ちゃんと家族のために最善の方法を話し合い実践することが、NICUに必要なチーム医療の形ではないかと思っています。研修などを開催することで、キャリアアップの支援をすることも重要な役割ですが、ベッドサイドでの看護ケアを実践してこそその認定看護師ですので、自らの実践を通して目標が達せられるよう、これからも研鑽を積んでいきたいと思っています。

退院調整看護師の業務紹介

地域医療連携室 退院調整看護師 岩佐 佳栄



地域医療連携室では、平成 15 年から専従の退院調整看護師を配置し、医療ソーシャルワーカーと協働して、医療依存度の高い在宅療養患者・家族への退院計画を支援し、スタッフへ具体的なケア指導等をサポートしています。また、入院前・中・後にわたり、訪問看護ステーション、保健師、地域医療機関、ケアマネジャー等と様々な連絡調整等の業務を担っています。今回は、主な業務内容について紹介します。

1. 看護局の退院調整チーム会リンクナース¹⁾と共に勉強会の開催や退院支援システムの推進・構築に向けて取り組んでいます。院内全体で退院支援や地域連携への意識の高まりがみられ、退院支援計画書作成件数の増加等に繋がっています。
2. 各部署での退院調整カンファレンスが定期開催となり、医療ソーシャルワーカーと退院調整看護師も参加します。患者・家族の意思と病態予測に基づいて方向性を確認し、退院後の療養を見据えたケアについて協議し、院内外と連携・調整しています。
3. かかりつけ医療機関との連携では、**がん地域連携パス**の現在の運用が 160 件を超え、当院・患者・かかりつけ医との連携の窓口となっています。
4. 在宅医療チームに無菌調剤室のある**調剤薬局**との連携も加わることで、ポートからの高カロリー輸液や、医療用麻薬で疼痛コントロールが必要な終末期患者でも、在宅療養へスムーズに安心して移行できるようになりました。
5. まめネットの稼働で、かかりつけ医に加え、訪問看護ステーションともタイムリーな情報共有ができ、よりシームレスで正確な連携が可能となりました。
6. 重要な役目として、退院後の在宅療養の実際を院内へのフィードバックがあります。訪問看護ステーションからの連絡書や在宅看取りの様子などは、次に繋がるようにと必ず院内関係者にメールや書面で報告しています。

急性期病院の短い入院期間の中で、患者・家族が病気や障害を理解し、退院後の療養を自己決定でき、安心して退院が迎えられるような退院支援を目指しています。地域関係者の皆様とのより良い連携ができるよう、一層の努力を続けてまいります。今後ご指導・ご支援のほどよろしくお願いいたします。



平成 24 年度 退院調整チーム会のメンバー

1) 退院調整チーム会リンクナース：院内中堅看護師を対象としたキャリアアップ研修「地域連携看護」コース修了者で構成し、所属部署において退院支援活動に関し、リーダーとして指導・啓発等を行う。

地域医療連携の状況



日頃は患者様のご紹介をいただきありがとうございます。
H25年4月～6月の紹介件数、ネット・FAX利用状況をお知らせします。

紹介件数、ネット・FAX利用状況

	紹介件数	ネット・FAX利用状況（内数）		
		まめネット	FAX 予約	
			診療	検査
平成 25 年 4 月	1,269	144	286	72
5 月	1,221	153	230	78
6 月	1,314	169	236	82